

重症熱性血小板減少症候群

あかたにけいこ
赤谷慶子

コロナ渦のなか、知人の娘と愛犬山中にて真虫^{マダニ}に咬まれたりと聞き及び、至急それぞれの病院にて處置を受くべしと進言したりき。

マダニに咬まれたりとも、即刻大事に至るにはあらず。然れども、そのマダニ、ウイルスを保有したらんには重症熱性血小板減少症候群 (Severe fever with thrombocytopenia syndrome virus) に感染する可能性あり、とウィキペディアは説く。名称長き故、しばしば同症候群の頭文字をとりて SFTS ウイルス (SFTSV) とぞ呼ばれる。

主たる初期症状は発熱、全身倦怠感、消化器症状にて、重症化し、死に至るもあり。マダニは、家庭内に生息するダニとは異種にして、鞆き外皮に覆はれたる大型のダニにて、通常は森林・草地などの屋外に棲息すれども、市街地周邊にも散見せらる。

全てのマダニ SFTS ウイルスを保有するにはあらず。日本国内にては、これまで複数のマダニ種より SFTS ウイルスの遺傳子検出せられたり。ウイルス保有率は地域・季節により異なれども、我が朝にては十五パーセントに及び、就中^{なかんづく}上方には三十パーセントを超ゆるの地もありとの由。

マダニの活動盛んなる春より秋にかけては、マダニに咬まるるを避くること肝要なり。草叢、藪など、マダニ多く生息する場所に入る場合は、長袖・長ズボン、足を完全に覆ふ靴、帽子、手袋等着用し、首にはタオル巻く等、肌の露出を最小限にす。マダニに吸血せられたる場合、皮膚科にて受診の上マダニ除去すべし。

マダニ類の多くは、ヒトや動物に取り付けば、皮膚にしつかりと口器を突き刺し、長時間（数日より、長きものは十日間以上）吸血するも、咬まれたりとは氣づかぬ場合も少なからずとの由。吸血中のマダニに氣付きたる際、強ちに引き抜かむとすればマダニの一部皮膚内に残りて化膿し、マダニの體液を逆流せしむる危険性有^{これあり}之、醫療機關（皮膚科など）にて處置（マダニの除去、洗淨など）をしてもらふ事重要なり。また、マダニに咬まれたる後、數週間程度は體調の變化に留意し、發熱等の症状認められたれば醫療機關にて診察を受くべし。日本国内にての感染症發生動向調査（二〇一九年四月二十四日現在）によれば、咬まれたりとの届出四百四名のうち死に至れるは六十五名。致命率は約二割なり。

獸醫師によれば、コロナ騒動の出來^{しゆたい}する以前、この SFTS の危険を國民に熟知せしむべく厚生労働省は準備せり。然しながら、コロナ渦にて状況一變したれば、頓挫す。

（令和二年六月二十八日受附）

